

ケニヤに使用して(三)

—ケニヤの家庭生活—

南
信
子

一、貧しき

首都ナイロビの町はずれにあるアフリカ人街を歩いていると、ジャンボ（ハローの意）、ジャンボとどこからともなく子どもたちが集まってまいります。ナースリースクールにも小学校にもゆくことのできない子どもたちは、両親が働きに出ている間、長い一日を弟妹の世話をしながら、家のまわりでただ無為に過していることが多いようであります。

遊ぶための玩具もなく、ぼんやりと無表情に立っている子どもたちの姿を見かけることもしばしばです。真っ黒い顔に目がきらきら光り、まつげが長く、髪の毛は男女ともくるくる巻いていま



ケニヤのちびすけ——三才児——

す。あまり清潔でないボロボロの洋服をきてはだしている子どもたちも多いのでありますが、そば近くよって握手を求め話しかけてくる子どもたちは本当に可愛く、子どもたちの話すスワヒリ語ができたなら、楽しい美しい話をいっぱいきかせてやりたいとどんなに思ったかわかりません。

しかしナースリースクールや小学校にもゆくことのできない家庭の子どもたちが多いことを思うと本当に胸がいたみます。朝の食事も充分に与えられない子どもも多いといわれます。とうもろこしや豆類、芋類を常食としておりますが、一般に栄養の不足は免れないようであります。どこの家庭も子どもが多いということが特徴であり、それに伴う生活の苦しさが問題であります。

衛生観念も乏しく病気も多い上に医療施設は少なく診療所には朝早くから順番を待つてならぶ人たちも多いようでありますが、病気になるっても医師の診察を受けることもできない人も数少なくない状態であります。住宅も最近では政府や市が一般のためにアパートを建てあっせんの方をとりりますが、イギリス人なみの文化設備のどのつた家庭生活にははるかに遠く、いまだに狭く電燈もない家にすむ人々も多いであります。

しかし、こうした生活の貧しさの中にも、よく来客の接待をすることを習慣としており、私はナースリースクールの教師養成のために開いた講座に集った婦人たちの家庭にお茶に招かれていっ

たこともしばしばでありました。何のてらいも、虚栄もなく誠実あふれたもてなしを彼らから受けた楽しい思い出は忘れることができせん。貧しくても他人に絶えず善意と好意を示すことのできる国民であることを思います。

二、家族の連帯感

また家族間の互助精神、連帯感にとんでいることにはたびたび目をみはる思いをいたしました。その例として次の二つの話を思い出します。

私の講座に集ってくる婦人たちの中には、主人と子ども数人をもっているという例も少なくなかったのでありますが、講座が一月続く場合にも寄宿舎に入り勉強に集中しておりました。留守中の家庭のことを案じてたずねますと、何のためらいもなく、主人や母あるいは長女が協力して留守を守り、子どもの世話をしていると答えるのであります。講座の間にしばしば妻を見舞い、家族の報告をする夫の姿もみられ、ほほえましい限りでありました。またこんな経験もいたしました。ある日のこと、イギリスの婦人とアフリカの学生たちと一緒に車にのりあわせたことがありますが、窓外にアフリカ人の親子が父親は手ぶらで、母親が赤ん坊をおい、子どもたちが荷物を持って歩いてゆくのを見かけました。

その時イギリスの婦人がアフリカの学生にむかって、手ぶらで歩く父親の態度を批判し、あなた方の国は女と子どもの地位が低い点が問題であると指摘いたしましたとき、アフリカの学生はそのイギリスの婦人にむかって「先生はアフリカ人の家庭をよくご存じでないと思います。あの親子は農家の家庭で、父親は一日中畑で重労働をし、今帰途につくところです。子どもたちはみな少しでも疲れている父親を助けたいと思っています」と答えました。

私はアフリカの家族の間にある互助精神に多くの学ぶべきことがあるように思われるのです。

三、家庭のしつけ

両親の子どもたちに対するしつけは非常にきびしく、イギリス人のしつけ方の影響を受けている点も多いように見うけられます。とにかくアフリカ人の気質から考えても、決して日本人のように甘やかして育てたり、子どもが過保護におちいる心配はない国民のようであります。一般の両親には育児の知識はあまりないようであります。親としての権威と確信をもっており、教えるべきことを徹底的に教えますし、子どもたちの両親に対する従順さもごく自然にみえます。子どもたちは成人するまでには男女ともに家庭で両親の仕事を見習い、両親を助け弟妹の世話をするよ

うに訓練をうけております。その結果、長ずれば他家に女中や子守、下男として、また料理や庭の手入れをするために雇われ家計を助けることにも役立つようになります。私は私のナーリースクールで教えた実習生たちが子どもたちの哺乳、給食、排泄などの世話を非常に手ぎわよくするのに驚かされましたが、家庭で両親を見習い弟妹の世話をよくする習慣が身につけている結果であると思います。家庭の外に楽しみや刺激が多く、両親も多忙で子どもたちが家庭で両親の手伝いをしたり両親から見習うことが少なくなりつつある日本の今日の家庭生活を思い考えさせられます。

四、家庭婦人の社会進出

生活の貧困さは家庭の婦人を社会へ押し出す一つの原因をつくっているようであります。乳幼児をもつ母親も生活のためにさまざまな職業についておりますが、それと同時に、最近の若い婦人は家庭にとじこもらず社会で社会人としての役割を果たすことにも意味を感じているようであります。家庭に女中を雇い、学校の教師をしたり、社会福祉や児童福祉の仕事にたずさわったりする婦人も少くありません。女代議士として活躍する先覚的婦人もあります。私の関係いたしましたコミュニティセンターや、ナイロビ市の幼児教育施設の監督の助手をしていたのはほとんど家庭婦人

でありました。イギリス、アメリカなどで留学して帰国し、社会に活躍する家庭婦人も少くありません。

また地方には地域の発展のために無報酬で自発的に文盲の婦人たちや子どもたちの教育にあたっている婦人もあり、ナースリースクールなども家庭の婦人たちが協力して交代で先生として働いている例も多く見かけました。最近では婦人会の自治活動も非常に盛んで、家庭生活の改善、家族計画、結婚問題、婦人の社会的責任などについても、自発的に問題点を見出しその解決にあたっているようでもあります。たんに集会をひらいて意見を述べるだけでなく、すべて

を実際の活動にうつそうとしてい
る点などにも学ぶべき
ものがあります。と
にかく、婦人が社会へ進
出してその役割を果そ

婦人会のリーダー 議事をする会長と副会長



うとする意欲と態度には、尊敬の念を禁じえません。自分の家族の幸福や一家の繁栄のためには多くの財力や労力を傾けても、社会に連帯責任を感じる家庭の少い世間一般の現状について反省させられる心持ちがいたします。ケニヤの将来は婦人の地位が向上するだけでなく、その社会に果す役割も大きいことを期待してやまないのですが、特に子ども問題を忘れずに活躍してほしいものだと思えます。

(北陸学院短期大学)



ともに働いたアフリカ人の指導者及びイギリス人の市のナースリースクールのスーパーヴァイザー
—— 中央筆者 ——